

(第1期)「未来高岡」総合戦略に係る評価(総括)

この評価書は、2015年10月策定の「未来高岡」総合戦略(2015～2019年度)に掲げる、4つの基本目標ごとの数値目標及び具体的施策ごとのKPI(重要業績評価指標)の最新の実績に基づき評価を行い、2020年度からの施策の展開方向についてまとめたものである。

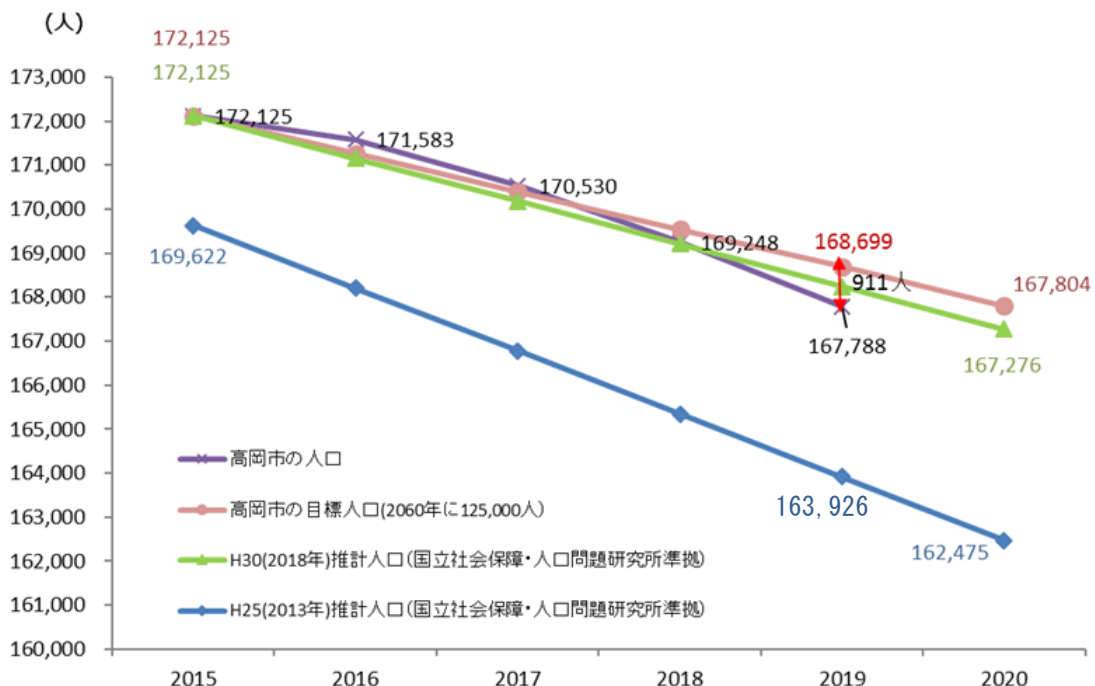
1 人口ビジョン

高岡市人口ビジョンでは、合計特殊出生率を2030年までに1.9、2040年までに人口置換水準の2.07まで向上すること及び、社会動態を均衡に保つことにより、2060年に125,000人程度の人口を確保することを目標としている。2019年時点の人口は、167,788人であり、目標値168,699人を911人(19.1%)下回っている。(2013年社人研推計による2019年の人口は、163,926人)

社会動態では、2015年度から2019年度における年度の平均は63名の転出超過であった。2014年度以前の過去10か年の年度平均は377名の転出超過であることから、第1期総合戦略における取組は、目標である社会動態の均衡に一定の効果があったと考える。転入・転出者を年代・男女別で比較すると、20代の若者、特に女性の転出超過が顕著であり、課題となっている。

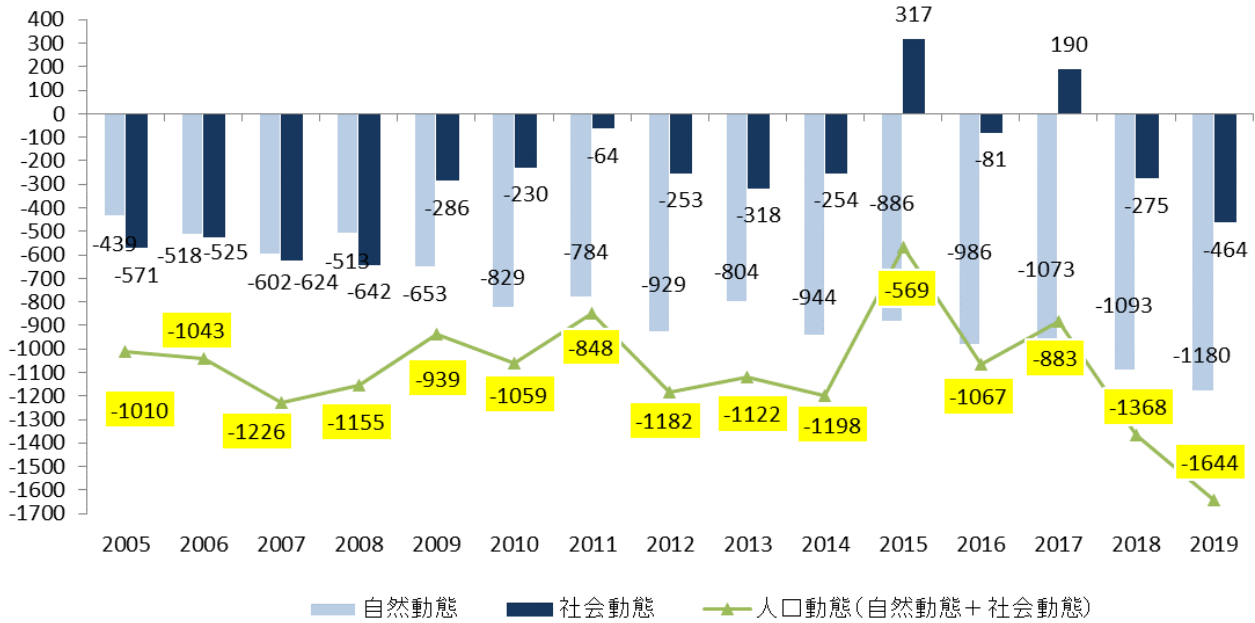
自然動態では、2015年度以降も死亡者数が出生者数を大きく上回る状況が続いている。合計特殊出生率は、2014年以降1.5前後で推移しており、また、15歳から49歳の女性の数自体も減少していることから、出生数は緩やかな減少傾向にある。

第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」では、これまで以上に危機感を持ちながら、移住・定住対策を強化し、人口減少に歯止めをかけるとともに、若者が働きやすく、子育てしやすい環境づくりを進め、結婚・出産・子育ての希望の実現を図り、人口の確保と人口構造の若返りに取り組んでいく。



※高岡市の人口は、住民基本台帳の人口から国勢調査との乖離による補正をして求めた現状値

【高岡市の人口動態の推移】

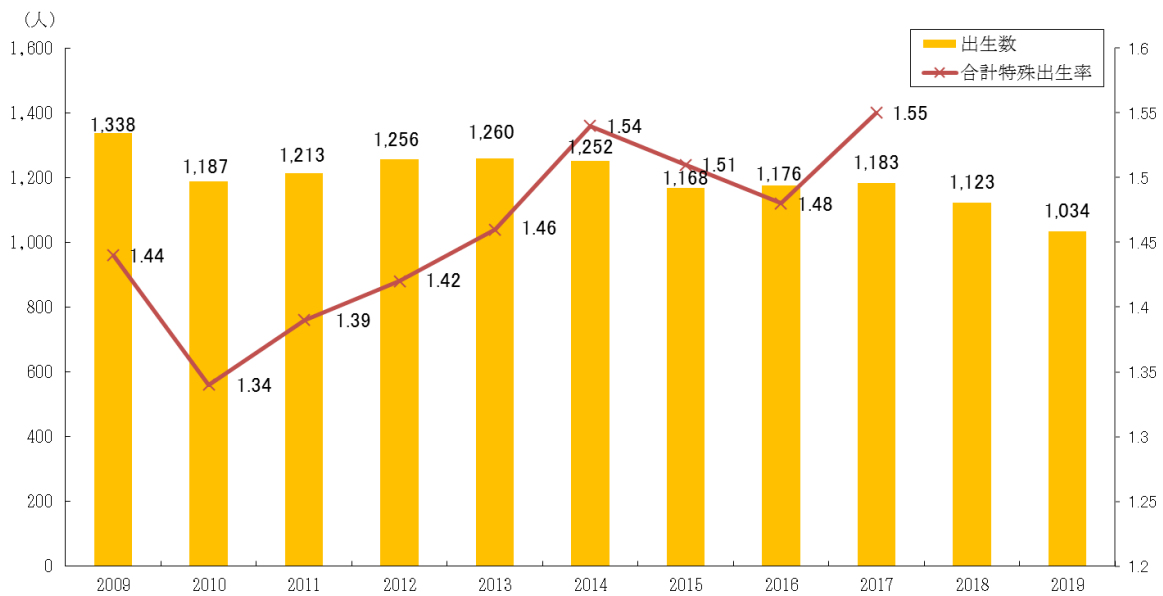


	人口増減 (増減A + 増減B)	自然動態			社会動態		
		増減A (I - II)	出生者数 I	死亡者数 II	増減B (III - IV)	転入者数 III	転出者数 IV
		2005	▲ 1,010	▲ 439	1,339	1,778	▲ 571
2006	▲ 1,043	▲ 518	1,362	1,880	▲ 525	4,575	5,100
2007	▲ 1,226	▲ 602	1,317	1,919	▲ 624	4,290	4,914
2008	▲ 1,155	▲ 513	1,384	1,897	▲ 642	4,260	4,902
2009	▲ 939	▲ 653	1,297	1,950	▲ 286	4,095	4,381
2010	▲ 1,059	▲ 829	1,182	2,011	▲ 230	3,892	4,122
2011	▲ 848	▲ 784	1,245	2,029	▲ 64	4,184	4,248
2012	▲ 1,182	▲ 929	1,215	2,144	▲ 253	3,838	4,091
2013	▲ 1,122	▲ 804	1,277	2,081	▲ 318	4,573	4,891
2014	▲ 1,198	▲ 944	1,206	2,150	▲ 254	4,226	4,480
2015	▲ 569	▲ 886	1,180	2,066	317	4,882	4,565
2016	▲ 1,067	▲ 986	1,147	2,133	▲ 81	4,645	4,726
2017	▲ 883	▲ 1,073	1,219	2,292	190	4,793	4,603
2018	▲ 1,368	▲ 1,093	1,080	2,173	▲ 275	4,597	4,872
2019	▲ 1,644	▲ 1,180	997	2,177	▲ 464	4,685	5,149

【年代・男女別の転出入の状況 (2019年度)】(単位：人)

	転入			転出			差引		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
総数	4,683	2,586	2,097	5,149	2,748	2,401	△ 466	△ 162	△ 304
10才以下	406	213	193	458	224	234	△ 52	△ 11	△ 41
11～17才	111	50	61	91	42	49	20	8	12
18～19才	194	116	78	242	137	105	△ 48	△ 21	△ 27
20～24才	867	483	384	996	501	495	△ 129	△ 18	△ 111
25～29才	897	500	397	1,042	547	495	△ 145	△ 47	△ 98
30～34才	642	355	287	711	401	310	△ 69	△ 46	△ 23
35～39才	459	261	198	439	243	196	20	18	2
40～49才	527	307	220	575	338	237	△ 48	△ 31	△ 17
50～59才	275	157	118	288	173	115	△ 13	△ 16	3
60～69才	156	92	64	140	81	59	16	11	5
70才以上	149	52	97	167	61	106	△ 18	△ 9	△ 9

【高岡市の合計特殊出生率・出生数の推移】



※合計特殊出生率は、1人の女性が出産可能とされる15歳から49歳までに産む子供の数の平均を示す。

2 総評

現総合戦略の4つの基本目標について、この5年間で、基本目標①「魅力的なしごと
に挑戦できるまちをつくる」は、創業支援や販路開拓支援の取り組み、新たな観光施設
のオープンなど概ね順調に進んでいたものの、第2期戦略の計画期間中においては、新
型コロナウイルスによる影響を大きく受けることが予想される。基本目標③「安心して
子どもを産み育てられるまちをつくる」は、保育所等の整備、延長保育や病児保育など
の特別保育の充実、放課後児童クラブの整備など、子育て支援体制づくりに取り組み、
概ね目標を達成、基本目標④「快適に暮らせ、創造的に活動できるまちをつくる」は、
まちなか居住の推進や高岡の文化の発信や交流に取り組み、概ね目標を達成したところ
である。

一方、基本目標②「多様なひとが住みたいと感じるまちをつくる」については、特に若
い世代の転出超過が続いており、達成していない目標・指標が多い結果となった。若い世
代、特に女性の転出超過に対応するため、女性や子育て世帯の移住・定住の促進に向け、
高岡の未来を担う人材の育成と確保に更に注力していくことが必要である。

第2期高岡市総合戦略においては、引き続き4つの基本目標を掲げることとしながら、
「ひと」の創生を起点に、高岡ならではのまち・ひと・しごと創生の好循環の確立に向
けて取り組んでいくこととしている。また、SDGsやSociety5.0など新たな時代の潮
流を取り込むこととしており、新型コロナウイルス感染拡大の影響をきっかけとした働き
方改革や新しい生活様式への対応に対しても、デジタル化の推進など新たな手法を取り
入れることで、適宜見直しを図る。

3 数値目標、指標の達成状況一覧（令和元年度実績）

基本 目標	種別	指標数	達成状況					備考
			100%以上	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	
①	数値目標	2	1	0	1	0	0	
	KPI	10	7	0	1	1	1	
	計	12	67%	0%	17%	8%	8%	
②	数値目標	1	0	0	0	0	1	
	KPI	8	2	1	2	0	3	
	計	9	22%	11%	22%	0%	44%	
③	数値目標	2	0	2	0	0	0	
	KPI	7	4	2	0	0	1	
	計	9	44%	44%	0%	0%	11%	
④	数値目標	3	1	1	0	0	0	※今後数値が判明 するもの1件
	KPI	4	1	1	1	0	1	
	計	7	33%	33%	17%	0%	17%	
合計	数値目標	8	2	3	1	0	1	
	KPI	29	14	4	4	1	6	
	計	37	44%	19%	14%	3%	19%	

※達成状況(計)は未集計指標を除き算出している。

※達成状況(計)は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

※基本目標について

- | | |
|-------------------------|----------|
| ①魅力的なしごと挑戦できるまちをつくる | 「しごと」の創生 |
| ②多様なひとが住みたいと感じるまちをつくる | 「ひと」の創生 |
| ③安心して子どもを産み育てられるまちをつくる | 「ひと」の創生 |
| ④快適に暮らせ、創造的に活動できるまちをつくる | 「まち」の創生 |

4 基本目標別の状況

基本目標① 魅力的なしごと挑戦できるまちをつくる

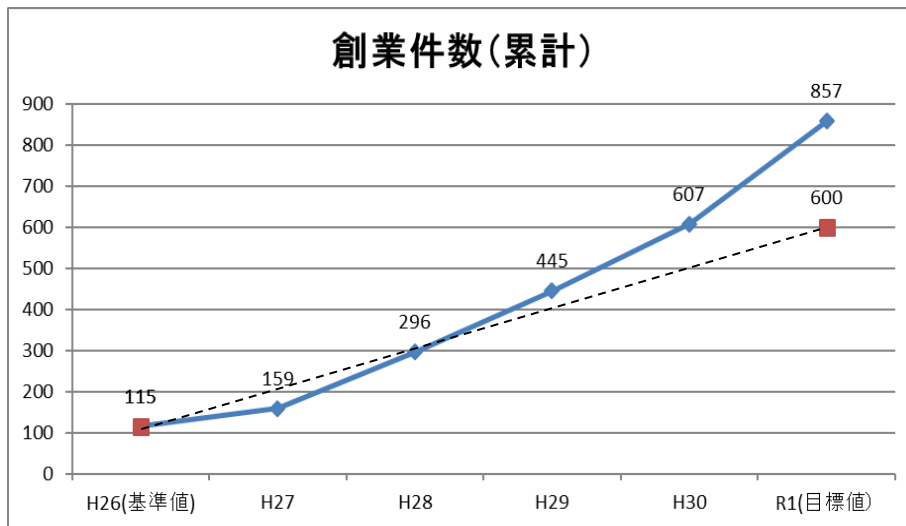
＜令和元年度実績＞

「創業件数」については142.8%と目標値を上回る達成率を示した。

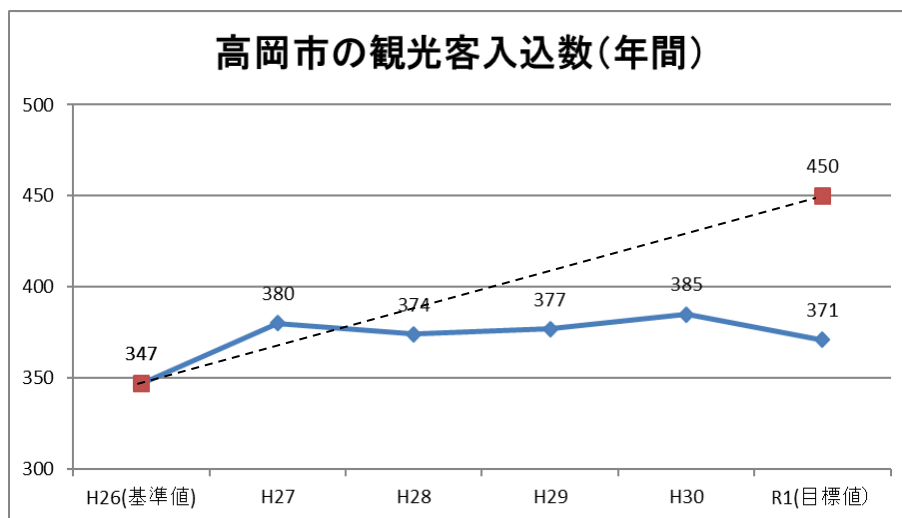
「高岡市の観光客入込数（年間）」は、旅行形態が少人数化の傾向にあり、観光客数を増加させるに至らなかった。

＜数値目標＞

項目	基準値	目標値	実績値	達成率
	H26	R1		
創業件数（累計）	115件	600件	857件	142.8%
観光客入込数	347万人	450万人	371万人	82.4%



※点線は目標値、実線は実績値。
 なお、点線はH26基準値とR1目標値を単純に直線で結んでいるため経過年度の目標値から乖離している場合がある。(以下のグラフも同様)



<総括>

産業の分野では、産業団地の整備や企業誘致・立地の促進、海外への販路拡大や起業・創業の促進を進め、高岡の都市の強みを活かした魅力的なしごとにも挑戦できる環境づくりに取り組んだ。令和元年度には、「IC パーク高岡」が分譲を開始し、現在7社の進出が決定するなど、企業団地への進出企業が増加している。創業件数は、高岡商工会議所など各支援機関との連携により、ワンストップで創業者の支援を行うとともに、創業ツアー等の取組により起業・創業の機運の醸成を図ったことにより順調に推移し、目標値を上回った。

今後は、新事業展開・新分野進出を図る企業への支援に継続して取り組むとともに、円滑な事業承継の推進や、次世代技術の導入、販路開拓、外国人材活用などの観点を取り入れることで、地域産業の競争力強化、若者雇用の創出を図る。現在、国際経済においては、人、モノ、サービスの移動や流通が制限されており、ICTの活用等による経済交流の確保やサプライチェーンの強靭化が課題となっている。

観光の分野では、平成27年の北陸新幹線開業後、同年4月と平成30年5月に2つの物語が日本遺産に、さらに平成28年12月には高岡御車山祭を含む33件の「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に認定されるなど、高岡の歴史文化資源が大きく評価された。これらを機に、着地型観光商品の造成や海外の旅行会社への営業訪問、現地メディアの招聘など広域観光・インバウンド施策を進めてきた。観光客入込数は、開業2年目の反動減が見られたことなどから、目標値を下回った。近年、個人や小グループなどに旅行形態がシフトしてきている影響が現れ、令和元年度の実績は減少となった。

今後、ポストコロナの時代には、消費者の嗜好や行動などが大きく変化することが予想される。北陸新幹線敦賀開業を見据えた効果的なプロモーションにより、新高岡駅を拠点とする広域観光の取り込みを推進しながら、本市の豊富な観光資源の磨き上げや、体験メニューの充実により、本市への立ち寄り機会、さらには滞在時間の増加につなげていく。

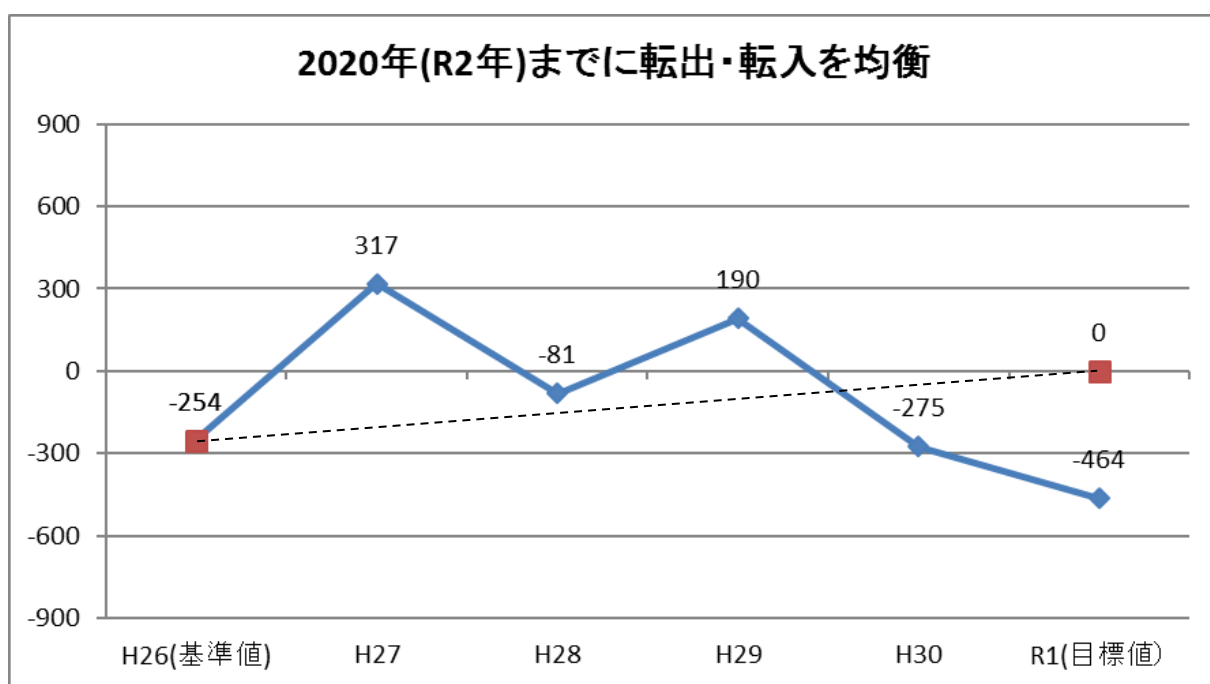
基本目標② 多様なひとが住みたいと感じるまちをつくる

<令和元年度実績>

令和元年度は、転入者数が 4,685 人、転出者数が 5,149 人であり、464 人の転出超過となった。

<数値目標>

項目	基準値	目標値	実績値	達成率
	H26	R1		
転入・転出を均衡	▲254	0 人	▲464 人	▲82.7%



<総括>

本市の人口減少対策では、若者及び女性の転出抑制と、転入促進を課題としている。そのため、空き家活用推進事業などによる定住の促進や、たかおかウェルカムサポート事業やたかおか人材確保推進事業による移住の推進、さらには、地元大学生の高岡への定着を目指した奨学金貸与事業や大学・地域連携推進事業などに取り組んでいる。

平成26年度以前過去10か年では、転入者数の年度平均は4,251人、転出者数の年度平均は4,628人であり、転出超過の年度平均は377名であった。平成27年度から令和元年度においては、転入者数の年度平均は4,720人と大幅に増加している。転出者数の年度平均は4,783人であり、転出者は増加しているものの、転出超過の年度平均は63名にとどまり、直近5か年において、第1期総合戦略におけるこれまでの取組は、市外・県外からの定住の促進には一定の効果が挙げられたと考える。

しかしながら、人口構造の若返りのためには、20代の若者の転出超過が課題となっており、転出の主な要因が若者の進学や就職であることから、今後は、大学や企業との更なる連携を図りながら、インターンシップの推進などを通じた地元の仕事や企業の魅力のPR、首都圏等での転職イベントへの出展により、若者等のU I Jターンの促進を図る。あわせて、呉西圏域の6市やハローワークと連携し、スケールメリットを活かした取り組みを進めていく。

また、ポストコロナへ向けテレワークなどICTを活用した場所や時間にとらわれない働き方が定着し始めている。この機会を捉え、大都市から地方への人口の移動を促す流れを作り出し、将来的な移住つながる関係人口の創出・拡大に向けた取組みにも注力していく。

基本目標③ 安心して子どもを産み育てられるまちをつくる

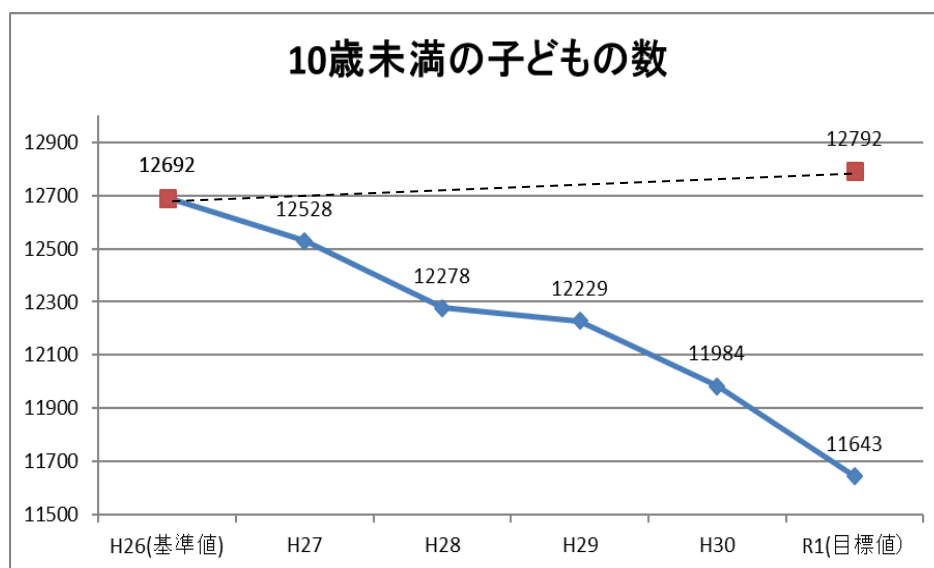
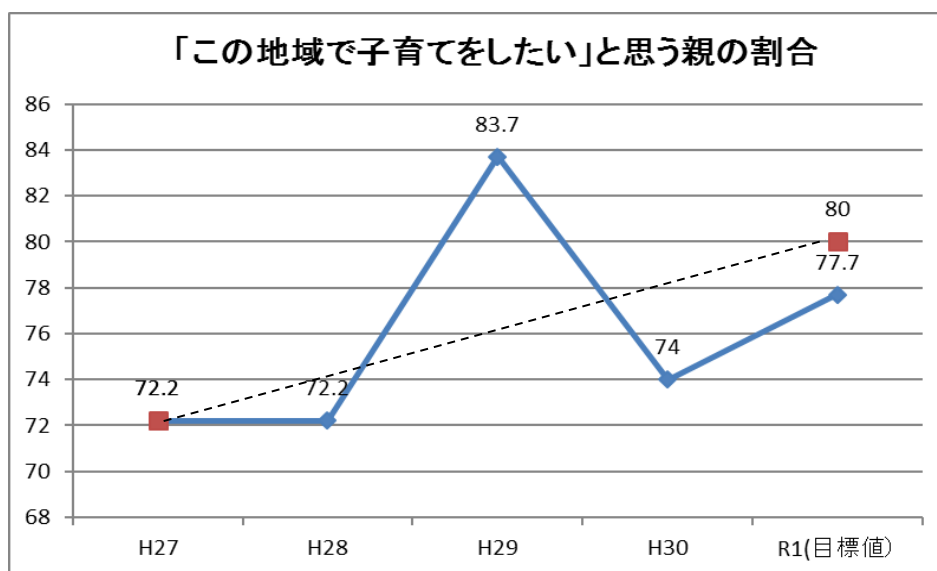
<令和元年度実績>

「この地域で子育てをしたい」と思う親の割合は77.7%となり、目標値80.0%を下回ったものの、昨年度の数値から3.7ポイント上昇している。

「10歳未満の子どもの数」については、11,643人で目標値12,792人を下回った。令和元年度の出生数については、997人となり平成30年度に比べ83人減少し、1,000人を切る結果となった。

<数値目標>

項目	基準値 H26	目標値	実績値	達成率
		R1		
「この地域で子育てをしたい」と思う親の割合	— (H27から算出)	80.0%	77.7%	97.1%
10歳未満の子どもの数	12,692人	12,792人	11,643人	91.0%



<総括>

認定こども園の移転新設整備や、病児保育の充実（2か所増）、放課後児童クラブの整備（公設2か所、民間2か所増）に取り組むなど、働く保護者がしごとと子育ての両立ができる環境づくりを推進し、「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」は、昨年度の数値より微増し、概ね目標を達成することができた。令和元年10月から開始した幼児教育・保育の無償化や子ども医療費助成等の子育て家庭への経済的支援、子育て支援ガイドブック「おおきくな〜れ」配付等の情報提供サービスの充実に取り組んだ。

今後は、令和2年度を始期とする「第2期高岡市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、親が子育ての不安や負担を乗り越え、子育ての喜びが実感されるように、地域や社会全体が支えあえるような環境づくりに取り組む。また、相談体制の充実や同じ悩みを持つ親同士の交流の場の充実など、安心して子育てができるようサービスの充実を図っていく。

「10歳未満の子どもの数」の過去5か年の推移は、平成29年度は一時上昇したものの、概ね下落傾向にある。平成26年度からは、5か年で1,049人の減少となった。合計特殊出生率は、平成26年以降1.5前後で推移しており、また15歳から49歳の女性の数自体も減少していることから、出生数は緩やかな減少傾向にある。

少子化対策は人口対策に取り組む上で重要な施策の一つであり、若者や子育て世帯の移住・定住を通じた出生数の増加、将来的な出生率の向上に向け、子どもが健やかに育ち、親が子育ての喜びを実感できる環境づくりを進めるとともに、地域全体で子育て家庭を支える環境づくりなど、切れ目なくきめ細やかな子育て支援サービスの充実に努める。また、新しい生活様式や、新たな働き方を見据え、子育て中の家庭においても多様な生き方を選択できるようワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいく。

更に、第2期高岡市総合戦略では、今後10年を見据えた学校教育及び社会教育・生涯学習等の振興を踏まえ、未来を担う子どもたちへの教育を充実させる。具体的には、子どもたちの連続した成長を切れ目なく支援する高岡ならではの小中一貫教育を推進するとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止を機としたGIGAスクール構想の加速化に取り組む。

基本目標④ 快適に暮らせ、創造的に活動できるまちをつくる

<令和元年度実績>

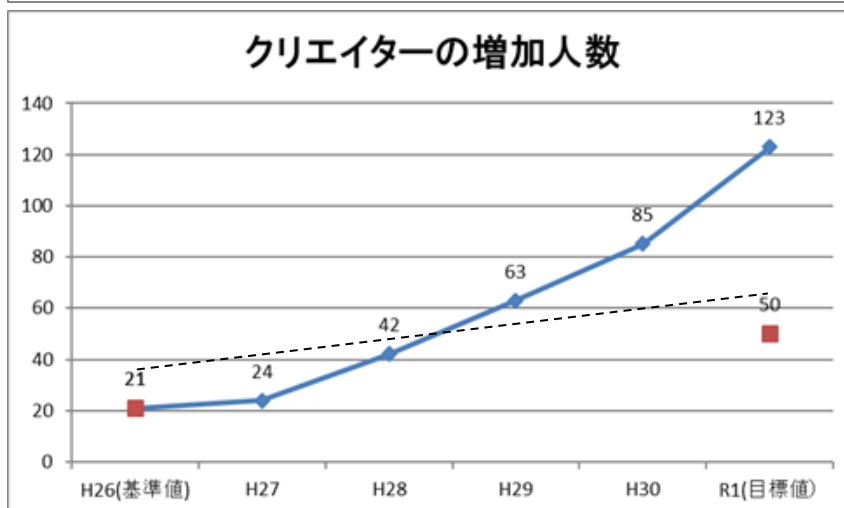
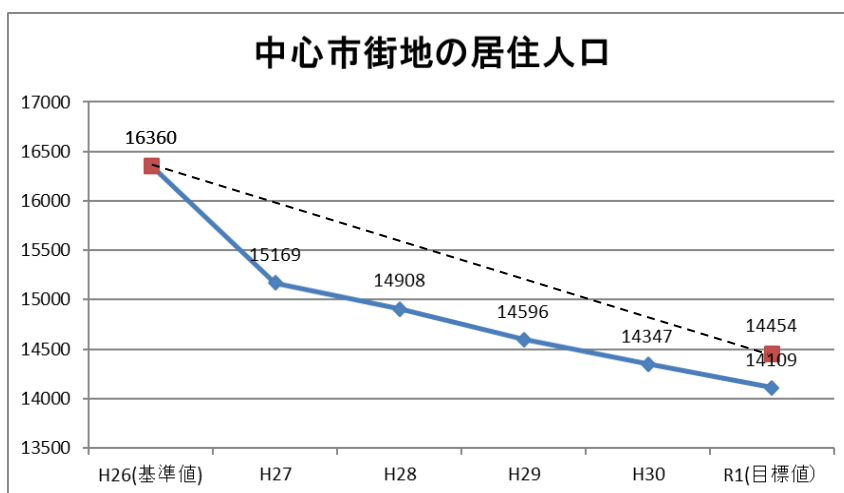
「中心市街地の居住人口」については、中心市街地エリア内のマンションの入居が開始された(平成31年3月)ことにより、624人の増加があった。しかしながら、中心市街地から他地域への転出がそれを上回り、令和元年度では50人の社会減となった。

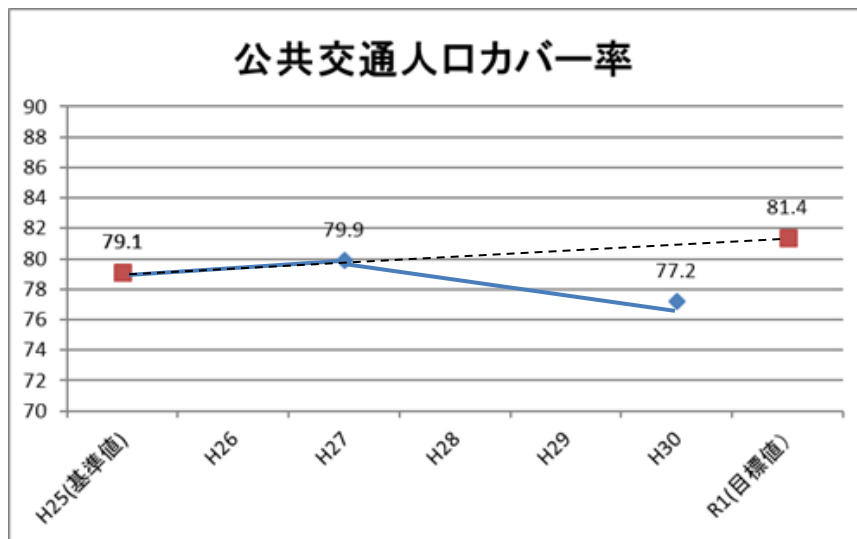
「クリエイターの増加人数」については、目標値を達成している。創業支援補助金や次世代クリエイター補助金が活用され、クリエイターの人数の増加に結び付いた。

「公共交通人口カバー率」については、国勢調査における人口分布をもとに試算しているため、最終的な評価は令和2年度の調査結果に基づくものになるが、平成30年度の推計値によると計画策定時に比べ減少していると考えられる。

<数値目標>

項目	基準値	目標値	実績値	達成率
	H26	R1		
中心市街地の居住人口	16,360人(H23)	14,454人	14,109人	97.6%
クリエイターの増加人数	21人	50人	123人	246%
公共交通人口カバー率	79.1%(H25)	81.4%	77.2%(H30)	—





<総括>

中心市街地のエリア内に平成31年3月入居開始のマンション建設されるなど、まちなかの居住人口の減少に歯止めがかかり、数値目標は概ね達成した。令和2年度末には、高岡駅東地区に新たなマンションが共用開始予定であることから、居住人口の更なる増加が期待できる。令和4年度を始期とする中心市街地活性化基本計画の策定に向けた検討に取り組むことで、居住環境と都市機能の集約を促進し、まちなか居住を推進する。この都市機能を求めて、まちなかに自ずと人が集まり、人々が時間と空間を費やすことで、多様な主体の交流が生まれ、新たなにぎわいの創出の促進につなげていく。

「クリエイターの増加人数」については、順調にクリエイターの育成が進み、数値目標を達成した。また、「令和」の典拠となった万葉集への関心の高まりを捉えた様々な事業を展開し、これまでも取り組んできた「万葉のふるさと高岡」の更なる発信を行った。今後も引き続き、創造的な活動を行う市民や関係人口が本市固有の文化に親しみ、交流する取り組みを推進していくことで、その方々のクリエイティブな発想を誘発し、芸術・文化活動の活性化につなげる。

「公共交通人口カバー率」については、モータリゼーションの進展によって公共交通利用者が減少し、バス路線の統廃合が行われたことで低下している。今後は、限られた交通資源を有効に活用し、中心市街地と周辺市街地をつなぐ鉄軌道や地域間バスなど骨格的公共交通を維持しながら、地域の年齢構成や地理的特性に応じた市民協働型の交通システムの導入を推進し、コンパクトアンドネットワークのまちづくりに取り組む。

5 交付金事業について

国の地方創生関連交付金を活用した令和元年度の事業概要については、次のとおり報告を行う。

(1) 地方創生関連交付金の概要について

ア 地方創生推進交付金（平成 28 年度～継続中、50%が国から交付される）

地方版総合戦略に位置付けられた先駆性のある取組の円滑な実施に対し、国が支援。

イ 地方創生拠点整備交付金（平成 28 年度～継続中、50%が国から交付される）

地方版総合戦略に位置付けられた先駆性のある取組のハード整備に対し、国が支援。

(2) 地方創生推進交付金（全 4 事業（市単独 1 事業、広域連携 3 事業））

ア 官民協働型のリノベーションまちづくりによる中心市街地賑わい創出プロジェクト

事業名	官民協働型のリノベーションまちづくりによる中心市街地賑わい創出プロジェクト
目指す将来像	民間の意欲を創業、開業に結びつけるとともに、遊休資産や歴史的な建造物のリノベーション手法による再生、賑わいを生むソフト事業の展開等により、中心市街地の活性化を目指す。
概要	空き家や空き店舗などの遊休資産、未利用・低利用物件をリノベーションし、自立経営していく手法などの勉強会・ワークショップ（リノベーションスクール）を実施することにより、民間主体による“リノベーションまちづくり”のための人づくりを行う。また、開業・創業希望者へ様々な支援措置（開業前／後の経営相談、改修費への補助など）を実施することにより、開業希望者の経営面・法令手続面をサポートし、以て中心市街地の再生と持続的発展を目指す。さらには、中心市街地へ出かけるきっかけとしてイベント等のソフト事業を実施し、「行きたいまち」づくりを展開する。
決算額	26,914千円
本事業における重要業績評価指標（KPI）	中心商店街・観光地周辺における新規開業店舗数（増加分） 【目標値】 R1：10件 H30：10件 【結果値】 R1：14件 H30：12件
	中心商店街・観光地周辺（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値（増加分） 【目標値】 R1：460人 H30：230人 【結果値】 R1：▲3,092人 H30：▲712人
	民間主体によるソフト事業実施件数（増加分） 【目標値】 R1：20件 H30：20件 【結果値】 R1：9件 H30：11件

イ 【広域連携事業】「大人の社会塾」を中心とした人材育成による地域活性化事業【拡大・深化版】

事業名および内容	【広域連携事業】「大人の社会塾」を中心とした人材育成による地域活性化事業【拡大・深化版】
目指す将来像	地域に山積する諸課題を解決するための人材を育成し、官民連携、政策間連携、地域間連携を図りながら、地域のけん引役を担う人材の養成を目指す。
概要	瑞龍寺を拠点に「高岡熱中寺子屋」の取り組みを進め、地方創生人材の育成を目指す。具体的には、市の地域特性を活かした新たな視点からの観光振興の実現に向けて、「観光開発」をテーマとした人材育成に取り組んでいる。山形県高島町が全国の熱中小学校の取りまとめをしている。
決算額	5,000千円
本事業における重要業績評価指標 (KPI)	連携先全体の交流人 (増加分) 【目標値】 R1 : 2,300人 H30 : 2,200人 【結果値】 R1 : 集計中 H30 : 15,825人
	熱中小学校プロジェクトに係るIoT活用による地域特産品等の売上高 (増加分) 【目標値】 R1 : 5,000千円 H30 : 11,000千円 【結果値】 R1 : 集計中 H30 : 2,609千円
	農畜産物を研究、新作物から6次化、地場産業を活かした特産品開発「熱中ブランド」 (増加分) 【目標値】 R1 : 2件 H30 : 2件 【結果値】 R1 : 集計中 H30 : 1件
※R1結果値については、高島町にて取りまとめ中(7/1時点)	

ウ 【広域連携事業】「海のあるスイス」をめざす ALL 富山観光プロジェクト

～マーケティングとブランディングによる選ばれ続ける観光地づくり～

事業名	【広域連携事業】「海のあるスイス」をめざすALL富山観光プロジェクト～マーケティングとブランディングによる選ばれ続ける観光地づくり～
目指す将来像	富山の上質なライフスタイルに共感してもらえるターゲット層へアプローチを行い、リピーターや定住をも視野に入れたブランド価値を確立する。
概要	日本版DMOの（公社）とやま観光推進機構を中心に、「選ばれ続ける観光地 富山」を目指し、官民一体となって「マーケティング＝売れる仕組みづくり」と「ブランディング＝上質なライフスタイルのブランドイメージの確立」に重点的に取り組む。「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が承認された富山湾の国際的ブランド力向上に向け、富山湾岸サイクリングコースの活用やマリンスポーツの振興、クルーズ客船の誘致など、その多彩な魅力を活用・保全する取組みを推進する。
決算額	8,063千円
本事業における重要業績評価指標（KPI）	観光消費額（増加分） 【目標値】 R1：108千円 H30：108千円 【結果値】 R1：集計中 H30：▲67千円
	アンテナショップへの来館者数（増加分） 【目標値】 R1：100,000人 H30：100,000人 【結果値】 R1：集計中 H30：▲7,000人
	県立美術館の年間来館者数（増加分） 【目標値】 R1：70,000人 H30：70,000人 【結果値】 R1：集計中 H30：▲381,187人
※R1結果値については、富山県にて取りまとめ中(7/1時点)	延べ宿泊者数（増加分） 【目標値】 R1：327,000人 H30：327,000人 【結果値】 R1：集計中 H30：▲115,090人

エ 【広域連携事業】「みらい」へつなぐ持続可能な富山型グローバル交通ネットワーク形成事業

事業名	【広域連携事業】「みらい」へつなぐ持続可能な富山型グローバル交通ネットワーク形成事業
目指す将来像	公共交通の利便性を高めるため、効率性・採算性等にも考慮した取組みを進め、つかいやすく、わかりやすい、持続可能な公共交通網の形成を目指す。
概要	地域公共交通の維持・活性化、地域のまちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築を進めるとともに、新幹線駅や拠点駅、空港へのアクセス充実や県内観光地をスムーズに周遊できる広域的な公共交通サービスの充実を図る。また、既存の広域交通ネットワークを活かした広域的なまちづくりを進めるため、関係者からなる検討会を設置し、まちづくりモデルケースを検討するとともに、まちの賑わいを創出する。
決算額	228千円
本事業における重要業績評価指標 (KPI)	鉄軌道・バスの利用率 (増加分) 【目標値】 R1 : 0.5回 【結果値】 R1 : 集計中
	観光客の県内交通機関の満足度 (増加分) 【目標値】 R1 : 2.0% 【結果値】 R1 : 集計中
	農林漁業等体験者数 (増加分) 【目標値】 R1 : 1,874人 【結果値】 R1 : 集計中
	富山空港国内・国際路線の利用者数 (増加分) 【目標値】 R1 : 3,110人 【結果値】 R1 : 集計中
※R1結果値については、富山県にて取りまとめ中(7/1時点)	

(3) 地方創生拠点整備交付金 (令和元年度該当事業なし)

本市における、地方創生拠点整備交付金の利用実績は平成 29 年度の「地域資源の魅力発信拠点整備によるブランド力向上プロジェクト」のみ。

【地域資源の魅力発信拠点整備によるブランド力向上プロジェクト ((仮称) 道の駅雨晴整備事業)】 事業費 : 190,000 千円、交付金額 : 95,000 千円

6 企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）について

地方創生を実現するために民間企業が積極的に寄附を行うことができるよう、平成 28 年度に創設された税制。国が認定した地域再生計画に対し企業が寄附を行った場合、法人税などの負担軽減が受けられる。

本市においては、平成 29 年 6 月に「藤子・F・不二雄先生のふるさとづくり～若者が夢を持ち住み続けたくなるまちの魅力向上プロジェクト～」が認定されている。

事業名 および 目的	藤子・F・不二雄先生のふるさとづくり～若者が夢を持ち住み続けたくなるまちの魅力向上プロジェクト～			
	日本を代表するまんが家藤子・F・不二雄こと藤本弘氏（以下「F 先生」。）の出身地である高岡ならではの取り組みを進めることにより、交流人口の拡大につなげる。あわせて、F 先生の作品のキャラクターに日常的に親しめる環境を作ることで、高岡に育つ子どもたちに、この高岡から F 先生のような世界で愛される作品を生み出す人物が輩出されたこと、このまちでの何気ない日常が大きな世界へとつながっていることを伝え、ふるさと高岡への誇りと愛着を育む。さらに、事業を推進させることにより、転出抑制と U ターンの推進、子育てしやすいまちづくりを実現し、「若者の定住の促進」「若者が安心して働き、子供を産み育てられる地域社会」につなげる。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー企画展示事業 ・高岡おとぎの森公園活性化事業 ・藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー PR 事業 			
事業費	18,087 千円			
寄附額	10,000 千円			
重要業績評価 指標 (KPI)	KPI①藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー入館者数			
		年 月	目標値	実績値
	申請時	H 2 9 . 3	38,606 人	38,606 人
	初年度	H 3 0 . 3	38,700 人	41,775 人
	2 年目	H 3 1 . 3	38,800 人	54,281 人
	3 年目	R 2 . 3	38,900 人	42,919 人
	KPI②高岡市社会動態推移			
		年 月	目標値	実績値
	申請時	H 2 9 . 3	▲81 人	▲81 人
	初年度	H 3 0 . 3	▲30 人	190 人
2 年目	H 3 1 . 3	20 人	▲275 人	
3 年目	R 2 . 3	70 人	▲464 人	